南部東部サミットリーダー会議　議事録（令和５年８月２１日）

南部・東部サミットリーダー会議
日時：令和５年８月２１日（月）　14:00～15:15
場所：大淀町文化会館 小ホール

１．開会
＜司会＞
　ただ今から、南部・東部サミットリーダー会議を開催させていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます、奈良県知事公室次長の勝井でございます。よろしくお願いいたします。なお本日の出席者のご紹介につきましては、お手元の配布しております、ご出席者名簿に代えさせていただきますので、ご了承ください。
　それでは開催にあたりまして、山下知事よりご挨拶申し上げます。

２．挨拶
＜山下知事＞
　皆さんこんにちは。
　本日は南部・東部サミットリーダー会議にご出席を賜りましてありがとうございます。
　また、先般の台風７号にあたりましては、各地域におきまして、首長さんをはじめといたしまして職員の皆様に警戒体制にあたっていただきましたこと、お礼を申し上げます。
幸い奈良県内では人的被害もなく、家屋の一部損壊が 1 件あっただけで、大きな被害はなかったわけでございますけれども、道路その他、まだまだ修復が必要な箇所もございますので、県としても速やかに対応して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
　本日は御所市、下市町、下北山村の３つの市町村から、各地域におきまして、人口減少をはじめとする様々な問題を抱えながらも創意工夫をして、地域の活力を維持・向上させるために、取り組んでおられる先進的な取組についてご発表いただく予定にしております。
　こうした各地域における先進的な取組、その他の地域でも同じように、同様の取組ができるところがあれば、ぜひ進めていただきまして、この南部・東部全体での活力の維持向上に繋がればと思っておりますので、どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

３．先進事例発表
＜司会＞
　御所市東川市長より「地域、民間、行政の協働による活性化の取組」について発表していただきます。

＜御所市　東川市長＞

御所市長の東川と申します。どうぞよろしくお願いします。

本市では今、中心市街地のまちづくりを一生懸命やらせていただいております。

２頁目、庁舎或いは商業施設、銀行といったものを一体的にとらえて、駅の方にまとめていく予定をしております。一方で、「御所まち」は近世のたたずまいが残るエリアですが、そこに外からの人も受け入れられるようなまちづくりをしていくというのが今の目的で、御所駅から歩いて周遊をしていただくエリアにしたいと考えております。

３頁目、「御所まち」の 10 年後も継続していきたいという思いを持って、シンボリックな赤塚邸（右上のイメージ図）が築 320 年で、県の指定文化財にしていただきました。また、谷川邸（右下のイメージ図）は旧モリソン万年筆で、こちらはカフェとホテルというふうな形でおこなっています。今年から「御所まち」のカラー舗装を進めていくところであります。

４頁目、令和 3 年 12 月 30 日、御所市・南都銀行・NOTE 奈良の３者で建造物を生かしたまちづくりをしていこうということで、連携協定を結ばせていただきました。

５頁目、南都銀行・油長酒造・フェニックス（石鹸・化粧品メーカー）・NOTE 奈良が出資して株式会社御所まちづくりを創設しました。それで、昨年に「GOSE SENTO HOTEL」というプロジェクトがスタートしました。

６頁目、その核の１つになっているのが、「御所宝湯」という銭湯になります。2008 年に閉鎖し、御所市もこれをどうにかしないといけないと思い、南都銀行等に多くの情報を提供していたところ、この辺が結んだ形になります。「御所宝湯」をリノベーションしてレトロな様子になりましたが、一方で本格的なサウナを用意しております。今年のゴールデンウィークには１日 320 人ほどの方が来られました。４割の方が市外県外の若者といったデータもあります。この裏にはコインランドリーがあり、葛城山を登られた方がここで洗濯をされるというストーリーも考えております。

７頁目、銭湯は地域コミュニティの１つの大きな装置になっています。事例にもありますように、年配者と子どもや地元住民や来訪者が交流されております。

８頁目、「GOSE SENTO HOTEL」が分散型ホテルというふうに言われており、食と湯と泊がそれぞれ分かれたところにある形になっております。少し話を戻して銭湯について、この熱源は御所市の間伐材を使用しております。環境省の補助をしていただいております。それで別の雇用も生まれております。この洋食屋ケムリ・御所宝湯・RITA 御所まち・宿チャリンコそれぞれ点在して、一つのホテルになっております。

９頁目、洋食屋ケムリですけども、たばこ屋をリノベーションしております。
レベルの高い料理をご提供されております。RITA 御所まちで宿泊された方が夕食昼食を取られています。

10 頁目、RITA 御所まちは高価格帯の宿泊施設になります。

11 頁目、宿チャリンコは自転車で来られた方が自転車を室内に持ち込むことができる特

徴を持っています。宿チャリンコの前身は自転車屋でした。

12 頁目、「御所宝湯」はレトロな様相で、それを SNS で発信してもらい、輪が広がっているという状態です。

他にも「御所まち」のこのようなことが契機となり、例えば油長酒造が本格的な古民家を利用してフレンチレストランを造りました。これはレベルの高い御所市の食材とお酒をマッチングさせております。或いは他のところでカフェができ、御所の食材を利用した料理屋、居酒屋、中には砂糖問屋ではりんご飴、既存の肉屋さんではコロッケ、或いは、カレーうどん店がサウナ飯を教えられ連携しておこなっているそうです。もとより、住民の方々と私（東川市長）も一緒になって御所の町をどんな形にしようかと、いろんな議論をさせていただきました。行政の役割としては住民の方の信頼性を担保ができたというのが一番大きな実績だと思います。今申しましたように重要伝統的建造物群保存地区を目指しまして、自治会を中心に「まちづくり協議会」が発足されました。地域と、そして民間とその仲介役として行政がこれから携わっていきたいと考えております。もしよろしければお越しいただけたらと思います。

＜司会＞

ありがとうございました。銭湯や古民家の再編等による御所まちの取り組み、それを民間と地元の方と、連携していくというご説明でございました。

続きまして、下市町枚本町長より、「下市町の賑わい創出について～民間連携による廃校等の利活用～」についてご発表いただきます。枚本町長よろしくお願いいたします。

＜下市町　枚本町長＞

下市町長の枚本と申します。どうぞよろしくお願いします

にぎわい創出の取組について、発表させていただきます。

２頁目、下市町では既存の公共施設で今後使用されなくなる施設を新たなにぎわいの拠点として、生まれ変わらせる取組を進めて参りました。役場だけではなく民間の活力、発想力、技術を活用することを前提に地域団体、住民の皆さんとともに協働して、この取組を進めているところであります。

３頁目、廃校になった「旧秋野小学校」について、地域おこし協力隊の２名が、割り箸、それから手づくりのカンナで家具を製造しています。割り箸は、下市町が発祥地と言われております。また、カンナで作る家具につきましては、海外にも進出しているところであります。

４頁目、「旧広橋小学校」について、一般社団法人が地域交流の拠点として、ワークショップやコンサート、合宿の受け入れ等を定期的に開催しております。今年度は秋におこなわれる「MIND TRAIL」について、それに合わせて何か行えるのではないかと考えております。また、校舎の横にありました職員の宿舎を改造いたしまして、第 2 の宿泊施設になっております。これは、外国の方からも要望されているところであります。

５頁目、「ならコープ下市ステーション」についてです。これは南都銀行の下市支店が統廃合により廃止になり、現在、ならコープがこれを利用していただいております。(「ならコープ」が）この移動販売は奈良県でもトップクラスの売り上げがあるそうでございます。住民スペースもございまして、高齢者の方がそこでいろんな会話をしたりするようになっておりますし、また、子ども食堂もここで開催をします。それから、今年度からは「下市町健康ステーション」として、そこの職員で健康相談も受けますし、この移動販売の時、役場の職員がついて行き健康相談を受けることや、血圧測定等も行っております。また、この健康ステーションには最新鋭の骨密度測定器も置かせていただいております。

６頁目、下市町に新しい小中一貫校ができました。パソコン、プロジェクター、タブレット等を用い、また小学校教科担任制を取り入れております。プログラミング、共同学習のほか、地元のことを知っていなければならないということで、下市学という新たな学習も進めているところであります。

７頁目、この開校に伴いまして、２つの小学校と中学校が入ったわけであります。そこで若手職員にこの廃校となる学校の利用方法についてどうするかということを募りまして、希望者 18 名が集まりました。そして若手職員が中心となってこのプロジェクトを進めて参りました。

８頁目、「旧下市中学校」について、サウンディング調査の結果、ＩＴを活用した地域交流拠点として、公募型プロポーザルにより事業者を選定いたしました。リングロー株式会社という会社が手を挙げていただきまして、そこに決定をいたしました。IT と地域の力で学校を起点に、地域を元気にする学校プロジェクトをおこなっているところであります。既にプレオープンしていますが、９月２日に正式なオープンを迎えることになっております、「下市集学校」では住民向けのパソコンやスマホの相談を常時無料でおこなっているところでありますし、住民が自由に利用できる交流スペースの開設、各種講座、イベントなどもおこなう予定になっております。今までも既に何回か開催をしています。また、フレイル予防に効果のあるといわれているｅスポーツ等を体験できる施設の開設も予定しております。

10 頁目、「旧下市南小学校」について、これもサウンディング調査の結果、観光客の誘引と新たな来訪者を呼び込む拠点として、公募型プロポーザルにより株式会社パルグループ HD を決定しました。

11 頁目、この施設は下市町の薬膳、農作物を使用したカフェとレストラン、住民の声を反映したベーカリー、子供の遊び場、地場産業を中心にしたマルシェなどを備えた複合の観光施設として来年の夏に開校予定になります。

12 頁目、パルグループ HD が施設の名前を「KITO」を付けました。体育館の機能も、子どもたちが遊び学ぶことができる。また、登れる本棚というのがここにつくられる予定になります。ここには観光バスは誘致せず、主に自家用車で訪れる施設になっております。
地元農産物や加工品を扱う地消型のマルシェなども生まれてくるわけであります。また、今年、下市町のいちごを使ったビールを作り、もう既に販売しております。

13 頁目、民間や地域団体による施設の活用を見いだすことを契機として、今年の 5 月ににぎわい拠点の運営団体や商工会、観光協会などの地域団体やそして地方組合、連携協定をしていく団体などで「下市町にぎわい創出協議会」を立ち上げました。

14 頁目、18 社の企業、そして 2 つの大学が構成団体となっており、各プロジェクトにおいての得意分野ごとに発表し、個別的に取り組んできたプロジェクトにつなげ、そして巻き込んでいくことをにぎわいの相乗効果として目指していきます。つなげていく事例について、当初は町が主導した各種構成団体をつなげていました。しかし、その協議会（下市町にぎわい創出協議会）を立ち上げたことによりまして、構成団体同士の横の繋がりが増えて参りました。新たなにぎわいのモデルもできつつあります。このにぎわい創出の取組について、役場職員が一生懸命取り組むのは当然でありますが、それでも限界があります。協議会では、協議会活動を専任的に行う 5 人のコーディネーターを起用し、事業者と連携をしているところであります。

15 頁目、現在、コーディネーターが中心となって各にぎわい拠点との連携、地域特性を活かしたイベントの創出、ヨーロッパなどからのホームステイの受け入れ、新たな特産品、観光商品の開発とともに、総務省の「ローカル 10000 プロジェクト」などを活用した民間団体向け補助金の獲得支援、空き家の新たな活用など様々な取組をしています。

16 頁目、Instagram なども利用しております。

これからも、下市町と地域が連携して、住民の方々が自慢できるような町にしていきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

＜司会＞

ありがとうございました。民間連携による廃校となった学校、具体的には旧下市中学校、旧下市南小学校等の活用について説明いただきました。

続きまして、下北山村南村長より「交流拠点を活用した関係人口の創出」についてご発表いただきます。

＜下北山村　南村長＞

下北山村長の南と申します。どうぞよろしくお願いします。

交流拠点を活用した関係人口の創出として、お手元に配布されている資料に基づきまして、下北山村の取組を紹介させていただきます。

2 頁目は、目次になっておりまして、このような内容で発表させていただきます。

3 頁目は、下北山村の簡単な概要を記載しております。下北山村は奈良市から 2 時間 40 分、中南和の中心であります橿原市からは 2 時間と、39 市町村の中で一番移動時間がかかります。一方、海のない奈良県では一番海に近く、三重県の熊野市まで 40 分でアクセスができます。林業の振興でございますが、森林資源になるべく負荷をかけない小規模林業自伐型林業を推進しています。観光の振興では最近のユニークな取組としまして、ＡＲ技術を使

った観光周遊で「貞子の村巡り」というのを開発しております。村内の 9 ヶ所の観光スポットにおいてスマートフォンで貞子の写真が取れるようになっています。貞子は少し怖いというイメージもありますが、最近はＳＮＳ活動や各種のイベントにも参加し、イメージも少し変わってきているようでございます。この事業の注目度は高く、マスコミにも取り上げられております。

4 頁目、左側のグラフは下北山村の人口の推移でございます。人口の減少には歯止めがかかっておらず、2020 年、753 人まで人口が減少しております。右側は移住者の推移でございます。過去 7 年間の移住者の推移を見ますと年間約 20 名前後の移住者でありますが、定住率は 61%となっております。やはり都市部と比べて、交通アクセスが悪いことから、移住定住のハードルは依然として高いと感じております。

5 頁目、下北山村の課題は人口の減少です。人口の減少が続きますと、空き家や遊休施設も増加し、後継者の不足や労働者不足も生じてきます。そして何より、村の活力が低下していきます。この問題を解決するための一つの足がかりとして、下北山村では、関係人口に着目しました。まず取り組みましたのは、ソフト事業では、2016 年から 4 年間、関係人口創出事業「奈良・下北山むらことアカデミー」というのを開催しました。そして、2019 年、2020 年には学生拠点活用プログラムというのを実施しました。ハード事業では、2016 年にコワーキングスペース「BIYORI」を整備し、2019 年には、「移住交流体験施設むらんち」を、2022 年には「シェアハウスこのま」を整備しました。ソフト事業とハード事業の両輪で関係人口が地域の課題の解決に継続的に関わる仕組を構築してきました。これらの事業につきましてこの後もう少し詳しくご説明をさせていただきます。

6 頁目、まず 2016 年から 2019 年の 4 年間実施しました「奈良・下北山むらことアカデミー」についてですが、「奈良県とソトコト」という雑誌と連携しまして、首都圏の若者をターゲットに、下北山村の現状を学んでもらう講座を実施しました。年間 5 回の講座をおこない、うち 1 回は下北山村に来ていただきまして、現地視察や村民の方との交流ができる講座をおこないました。最終講座では受講者全員の方から、関係人口として下北山村と関わるプランを発表してもらいます。4 年間で約 40 名の方が受講されました。アカデミーからの新規事業の立ち上げや、移住へ繋がった例としましては、受講者の方が勤めている会社が 2020 年に宿泊型転地療養サービスを行う事業所を下北山村に開設してくださいました。鬱病や心の病等で休職離職されている方の社会復帰や再就職を支援するサービスです。事業所開設の結果、スタッフやその家族、社会復帰可能となった利用者の方が移住されました。また、地元住民の雇用にもつながっております。そして、同じくアカデミー卒業生からは下北山村にＵターンし、個人事務所を設立し、ものづくりやデザイン事業部等で地域の活性化に貢献している方もおられます。

7 頁目、アカデミーの 3 期生で東京在住の大学生が、学生の拠点づくりと村の子どもたちとの交流という村と関わるプランを提案してくれました。空き家の活用と若者人材の不足という、村の課題と学生のプランがかけ合わさり、「BIYORI」に隣接した空き家をリノベー

ションしました。村産材を活用し、都市部の大学生と地域住民が協力して、ＤＩＹで空き家を改修した「移住交流体験施設むらんち」が完成しました。現在、移住検討者、テレワーカーや地域と関わる大学生が利用する施設として運用しています。右下の表は、「むらんち」の利用者数ですが、令和 3 年度は 70 名が利用し、そのうち 7 名の方が移住、令和 4 年度は 94 名が利用し、そのうち 4 名の方が移住されております。

８頁目、この空き家プロジェクトに関わった慶応義塾大学のメンバーが中心となって、2019 年、都市部の大学生と下北山村をつなぐ学生団体「まとい」というのを立ち上げ、関係人口として持続的に地域と関わってくれています。現在、ＯＢ・ＯＧを含め 35 名のメンバーが活動しています。「まとい」の活動は、学園祭や都内の物産イベントでの村のＰＲ、村内の特産品の育成のお手伝い、地域未来塾の運営などです。地域未来塾とは、塾が村内にない村の子供たちの高校受験対策として、「まとい」が夏期講習、冬期講習を実施してくれる塾です。慶應義塾大学、一橋大学、早稲田大学に在学中の塾講師経験者が 5 教科の講師を務め、約 10 日間の集中講座をおこなってくれます。大学生との関わりの中で、村の子供たちのコミュニケーション能力や基礎学力の向上につながっていくことが期待されています。

９頁目、関係人口創出に欠かせない拠点としまして、2017 年に山村留学寮を改修し、コワーキングスペース「BIYORI」を整備しました。テレワーカー、サテライトオフィスの誘致を図るとともに、関係人口と地域住民の接点が生まれる施設となっています。これまで ANA グループや小林製薬、小田急電鉄と連携し、ワーケーションの実証実験を実施しております。サテライトオフィスの誘致では、釣り具メーカーの株式会社ランシステムが入居し、村内にカフェ、物販、宿泊施設の複合施設を開業されました。アングラーの拠点ができるとともに、雇用や地域の活性化にもつながっています。右のグラフは「BIYORI」の利用者の推移ですが、令和 4 年度は利用者が 1450 名です。主に地域おこし協力隊や地域の方々が打ち合わせや会議等で利用されました。村外用者は 800 名で、コロナウイルス下でもテレワークをする方が増えています。最近では大手ゲーム制作会社の開発合宿で、アメリカやコスタリカからテレワーカーの来訪がありました。

10 頁目、2023 年には、旧南都銀行社員寮を改修して、関係人口の人達が中長期的に対応できる「シェアハウスこのま」を開業しました。旅をしながら仕事をする人を会員としている株式会社 SAGOJO と連携し、都市部からの人材が滞在中に村内のお手伝いや人材の不足する施設で働く仕組を作っています。そして中長期的な滞在を通じて、都市部人材のスキルや知見を活かして、村の活性化や担い手不足の問題解決にも協力してもらえたらと考えております。現在、村内の観光施設、保育所、農家のお手伝い等で活躍をしていただいております。2023 年 5 月に受け入れを開始しまして、5 ヶ月で 38 名の方が利用されています。「地域活性化企業人制度」を活用しまして、東京から家族で移住された方がシェアハウスの運営に携わり、村と都市部人材をつなぐ役割を担っていただいております。

11 頁目、下北山村では 2016 年から様々な関係人口の取組を行ってきました。関係人口の人達が継続的に地域に関わってもらうには、地域住民とともに地域づくりをする仲間とし

て認知され、課題を共有できる関係性を作り、同じ時間を共有できる拠点が機能していることが大事であると考えております。そして、地域の人材が持つ内発的なエネルギー、地域以外の人材が持つ新たな視点、その視点がうまくかみ合ったときより魅力ある地域づくりにつながっていくのではないかというふうに思っております。私は挑戦なくして下北山村の未来はないというふうに考えております。これまで様々な交付金を活用して、様々な事業を実施してきましたが、実はこれからが正念場だというふうに思っております。今までやってきた事業をこれからつなげていくか、また新しい事業をいかにしてやっていくかということが大事だというふうに考えております。以上、交流拠点と関係人口について下北山村の取組を発表させていただきました。ありがとうございました

＜司会＞
　ソフト事業としての「奈良・下北山むらことアカデミー」、それからハード事業としてのワーキングスペース「BIYORI」など、交流拠点を活用した取り組みについて説明いただきました。
　それでは、先進事例の発表を受けての意見や質疑や各市町村の取り組み、独自の取り組みについての説明等の幅広い意見交換をお願いします。

４．意見交換
＜川上村　栗山村長＞
　決して私の（これからの）発言はネガティブでないとご理解いただきたいと思います。改めて奈良県にはお聞きしたいことがあります。
　昨年度の南部・東部市町村長サミット、それから今日のサミットですけども、少なくとも知事が代わられ、それから事業の見直しがあり、踏襲するところ、また見直しするとこがありました地域からも発表されたところではあるが、改めて今までの形で山下知事が進められようとするのか、まずお聞かせをいただきたかったと思います。
　39 の市町村には若干、やはり大なり小なり、県と市町村の間のこのサミットについては、いろんな思いがあったと思う。
　私は特に県と市町村のこの協議の場というのは、非常にありがたいですが、今までやっぱり県主導が非常に目立った。
　なぜ急ぐのか、なぜ取りまとめようとするのか、なぜその短時間の間に結論に導こうとするのか、非常に違和感があった。
　今日まで協議してきた内容は今に始まったことでなくて、それぞれ市町村が非常に悩み悩んだ協議ばかりである。
　例えば消防でもない、ごみでもない、水道でもない、国保でもない。
今この議論しておるのはもう真に迫った悩みばかりであるのに、それを市町村長が集まっ

て県との間で短時間の間に議論をするのは非常に違和感があって、そのような形が本当に市町村の振興になるのかなと思っておりました。

そういったところ、私はいいように解釈して、改めて今日御所市長、あるいは下市町長、それから下北山村長が発表されたように、やはり市町村は非常に素晴らしい取組をしていますよね。

知事はまさに市町村をサポートする、支援するということですからですね、この辺のもう個々の事情はみんな違うわけです。隣近所でも全部違います。

違いを求めてまちづくりをしてきたわけなので、活きた部分はもう全く違うわけですから、例えばこのリーダー会議とか、それから幹事会、部会にこだわらず、県の美しい南部東部振興課とそれぞれの市町村で独自に進めていく、これからは形にこだわらずぜひそのような形を進めて欲しいです。

そしてその中で県の方から、県と市町村で共有すべきこと、共通で取り組むべきことを探り出していただいた上で、こういったまとまった会議をしていただくのが、私は本当に市町村の振興になっていくのではないかと思います。

やはり県と市町村のこの状況については、大なり小なり悶々としたことが市町村長にあったと私は思います。

以上です。

＜山下知事＞

県市町村長サミットは、私が生駒市長の時に何度か出たことがあるので、どのような会議なのかは何となく分かっていましたが、今日の南部・東部サミットリーダー会議において、私は初めて出席する会議であり、率直に言って、どのような趣旨目的で、いつからどのようにされてきたのかっていうのは、あまり正直知らないです。

先般担当部局から、今回どんなテーマでやりましょうかというお尋ねがあって、この間いろんな各市町村長さんから、先進的ないろいろな取組の報告を聞いていたので、皆さんそうした先進事例や取組をご存知とは思いながらも、もしかすれば共有できてないのかもしれないと思い、そのような取組を共有するような機会、いわば勉強会ですよね、それをしたらいいじゃないかと提案させていただいて、今日の開催に至っています。

ですから私の頭の中には、この南部・東部サミットってものが、どうあらねばならないというようなことは全くございませんでした。

何か改善すべき点があれば改善したらいいと思いますし、お忙しい市町村長を一堂に会する必要はなくて、個別に美しい南部東部振興課の職員と各市町村で議論した方が実になるのであれば、わざわざ全員集合しなくてもいいだろうし、そのあたりは市町村長さんのご意見・ご要望をお伺いした上で、フレキシブルにこの会合のあり方を考えていきたいと思っております。

何も決まった方針はございません、正直言いまして。ただ、前例を今回は踏襲してみたと

いうことに過ぎないです。

＜明日香村　森川村長＞

私自身、栗山村長の仰せになった想いは普段から聞いていますし、少し県全体が進め過ぎたのではないかということは共有しています。私は県の立場でもあって仕事した時期がありますから、それはすごく感じておりました。

それと、その中で一つ生駒市長出身の知事に申し上げたいことがあります。

都市部では、公平性とか、いかにオープンに情報を出すかっていうことは非常に大切だと思います。

ところが、地方、過疎部においては、やる気のある人がどれだけその芽を大切にして盛り上げていくかということがものすごく大切である、過疎部と都市部は全くアプローチが違うと思っています。

明日香村は中間近いところがあり、両方の性格を持っていますが、特に今の事例を見ていただいても、これ本当によくうまく動いたと思う。

実は定住率が 6 割ぐらいと聞き、驚くとともに非常に素晴らしいと思いました。かなり大胆な取組をされていると感じました。

そういうことを事例として教えていただくと、川上村長とは若干違いますが、私は非常に役立つと思いました。近隣市町村でも知らない話があり、自分の自治体において何か使えるものはないかなと感じました。

こういった事例を今後も聞くタイミングをいただければと思いますし、できましたら、実務担当者の声を聞かせていただくのが一番役に立つと思います。

特にこれが困った・出来ていないという課題等を教えていただけますと助かります。首長が話すとやはり綺麗に話してしまいますので、本当の課題などは見えづらいかなと若干感じました。

外から来たり、或いは中に戻ってきた人がどのように努力して、どんな形で動かしたということについて、超えるべきハードルの部分がよくわからないので、この辺り少し進め方を検討いただきたいです。

また、過疎地域と、都市部はかなり性格が違うため、公平性ばかりを重視するのではなく、努力して枠を越えてでも進んでいく自治体に対して、県が支援をするなどお願いしたいと思います。

もう一点、大きく北から南へ、大阪・和歌山からの関係・観光人口の流れを作るのは市町村単位ではできないところがあります。地域ブランドをつくっていくような流れは県の方で考えていただけるとありがたいです。

こういった流れを積み上げるのは３年や５年かけて取り組んでいただくことにより、進んでいくものではないかと思います。

＜司会＞
　栗山村長、森川村長の方から、南部・東部のサミットの運営のあり方等についてのご意見をいただきました。その方面の意見、または、先進事例の取組について、ご意見質問等、ございましたら引き続きよろしくお願いします。

＜山下知事＞
　そうすると、2 人の村長さんからのご意見をまとめると、この南部・東部サミットの開催のあり方を検討して欲しいということと、県が南部・東部の市町村をどう支援していくかについて、都市部に対する県の支援とは違う支援が必要になるため、そうしたことも意識して取り組んで欲しい。
　大きくまとめると、その 2 点という理解でいいですか。
　その 2 点については今ここで議論する時間はないので、美しい南部東部振興課の方へご意見を寄せていただければと思います。
　本日いただいたこの 2 点については、県担当部局と私で協議し、答えられるように、進めるということでよろしいですか。

＜川上村　栗山村長＞
　しつこいようですが、市町村長として共有すべきこと（今日みたいな話）については、当然それでいいと思います。
　その上で、地域の活性化は市町村の顔だと思っている。市町村の顔（活性化）はそれぞれ異なるため、県はそれを尊重して欲しいです。
　自治体が接しているといっても、まちづくりも村づくりもとっている方法は全く違うので、それを尊重した上で、県の指導をお願いしたいと思います。
　知事は市町村を支援すると仰っているため、私は安心しておりますけども、それぞれ異なる顔を、同じ金太郎飴みたいにしていく必要はないじゃないかなと思っております。

＜山下知事＞
　他の先進事例も参考になるのではないかなとは思いますが。

＜川上村　栗山村長＞
　その点については、はじめに言及しています。共有すべき、市町村長として勉強すべきだと当然思っていますし、それが前提の上の話です。

＜司会＞
　他にご意見はありますでしょうか。

＜吉野町　中井町長＞

それぞれの切り口から、３つの事例を聞かせていただきました。

南部・東部サミットリーダー会議のあり方については、いろいろあると思います。

それぞれの地域で、空き家・公共施設などいわゆる拠点については、いろんな制度を使ってできると思います。

しかし、過疎地域は公共インフラが弱いため、どうやって拠点に人を移動させるか、これが我々にとって一番大きな課題だと感じています。

町外からこられる方を対象としたゲストハウスにしても、夜に飲酒される際にも、移動手段がネックになり、経営自身が厳しいということも聞いております。

そういう意味からいうと、過疎地域ではやっぱり公共インフラがない分、どうやって移動手段を確保し、人を拠点へもっていくかっていうところが一つ大きな問題だと思います。

そこで、こういった事例発表の中で、モデルとして、例えばライドシェアやウーバーなど、まだまだ規制の中でできないことがあろうかと思うが、拠点と拠点をつなぎながら、このエリアの中で、モデル的にやっていくなどを視野に入れながら、県も入って実証実験をやっていただくとありがたいです。

下北山村さんのコワーキングスペースの事例で、SAGOJO と関わった話をしていただいたが、吉野町でも SAGOJO と連携し、「YOSHINOGATEWAY」や「ゲストハウス三奇楼」を中心に、地域の農業、林業や製材、そういった仕事にこられた方のリピーターを増やしながら、長期間滞在を目指す取組をしています。

その時に、吉野町だけ見てしまうと、例えば東京や大阪から来た方にとっては、限定的になってしまいます。

下北山村さんや川上村さんなど、他の地域のエリアの情報があれば、吉野町を拠点に他の南部東部の方に紹介できたりもあるじゃないかなと。

そういったことも、やはりこの会議でやってもいいのかなと思います。

吉野町だけでなくその近隣で、仕事も含めて情報共有等していくと、大きな南部・東部というエリアの中で、人の移住や空き家のマーケットもより良くなるのでは。

それぞれの取組をキャッチしてもらって、観光インフラなど地域連携の情報共有をしていただけるといいのかと思う、よろしくお願いしたいです。

＜高取町　中川町長＞

高取町も過疎地域になったが、奈良県の「大和都市計画」、「吉野三町都市計画」の範囲内です。県の都市計画部局に相談しているが、県内一律であるというご指導をいただいています。県内一律だと奈良市や生駒市、大和郡山市など北部都市とも中南和地域の町が一緒にされているんです。

例えば住宅関係の開発等についても、北部都市と中南和地域の町はもともとが違います。十分ご存知だと思うが、奈良県の人口全体で見れば、昭和 20 年代から一度上がって、下が

ってきています。
　しかし、南部・東部地域はピークが昭和 25～26 年で、その後はずっと減少し続けており、高取町も今は 6200～6300 人であるが、昭和 25 年ぐらいは約 1 万人でした。
奈良県全体のように増えてから減っているのではなく、ずっと減っています。
　これは都市部等において、一律的に行政指導なりで進めてこられた結果だと思うので、それぞれの地域に合わせて弾力的に対応していただきたいです。
　即答は結構ですので、そういう意見もあったということでご承知おきいただきたい。

＜山下知事＞
　具体的には規制のかけ方で、どういう事例についておっしゃっているのか。

＜高取町　中川町長＞
　個別の問題になってくるが、例えば、住宅の開発などです。
　高取町は調整区域が多く、既存の立派なお屋敷がたくさんあるが、次の代の方は住まずに出て行って空き家になってしまいます。
　一方、田んぼの近くに農家住宅という形で建てているが、住宅を個別に建てるとなると、都市計画サイドは厳しいことを仰せになります。
　一旦、人口が増えた後に減っていく地域と、ずっと減少している地域との差異があるのは、今までの行政のやり方がまずかったのではと思います。なので、その地域ごとに考えていただければなと思います。

＜十津川村　小山手村長＞
　先ほど栗山村長おっしゃられたように、南部・東部考える場合、そのキーワードは、多様性だと思います。
　各自治体によっても違うし、一つの自治体の中においても、まるっきり違う、それが南部・東部地域の魅力でもあり、課題でもあると思います。
　ついては、ご多忙だと思うができれば知事に各自治体に実際にお越しいただき、それぞれの魅力なり課題を見てもらえればというふうに思っております。
また、南部・東部の方にしてみても、それぞれの自治体の課題を集めた上で、共通するものを出していただいているのであればいいと思いますが、どちらかというとトップダウンできているような感じのイメージもございます。
　ぜひ自治体それぞれの状況を知っていただきたいというふうに思っております。
　特に県にやはり望むことは、県しかできないという部分です。
　管理者としての業務、例えば道路管理者であるだとか河川管理者だとか、県でしかできないことに対する期待感っていうのは、特に南部の方は大きいと思います。
　また、奈良県の道路だけを見ていただきたいということではなく、和歌山県の道路も見て

いただきたい。
　和歌山県の道路を見ていただいた上で奈良県の道路の状況っていうのを知っていただきたいと、特に感じております。
　県を跨ぐ部分について、指導力あるいはリーダーシップを期待しております。

＜司会＞
　最初に説明していただいた先進事例の取り組み等についても含めまして、ご意見、ご発言よろしくお願いいたします。

＜上北山村　山室村長＞
　知事がこの場に来られたっていうのは、このサミットがどういうものか知りたいということだと思います。実は我々もこの南部・東部の振興というかこの組織は上から、知事からの話だと認識しています。
　ただ南部・東部の振興を図るには、根拠法、条例がないと、いろんな事業を応援しにくいという経緯だったかと思います。
　これだけ広い範囲において、同じことをできるはずもなく、個別というか小さいグループで、観光などいろいろなことをしていかざるをえないと思っております。
その上で、南部・東部振興について、一旦オールクリアとまでは言わないが、クリアボタンくらい押してもらえたらと思います。
　南部・東部振興について新たにどうあるべきか、どういう方向に行くのかということを、再度考えてもらった方がいいのではないかと思っております。
　先進事例を聞いて、感銘も受けるし、それはそれでいいと思いますけど、そこに行くまでに一旦今後どのように県が南部・東部地域の振興を図っていくか。
　この会議体を母体にせずに、新たな視点でやっていただいた方が、私はいいと思います。ただせっかく作ったのでもったいないですから、これをいかに利用できるかは知事の手腕だと思いますけれども。
　クリアボタンをちょっと押す方が、今後の地域の発展に繋がるのではないかと。
　各市町村の事情が違うので、我々の村と山添村とかはやはり違います。
　条件が違うのに何でもかんでも一緒にするのは政策的に無理が生じると思っています。先進事例の発表はとてもよかったです。

＜山下知事＞
　そしたらもう、こんな全員集まって、1時間程度の会議をする意味はないじゃないか。ざっくり言うとそういうご提案ということでいいですか。

＜上北山村　山室村長＞
　そうですね。私はそう思います。
　さきほど、明日香村長さんがおっしゃったように、先進的な取組について、発表してもらう機会はとても嬉しいです。
　川上村長さんの意見に繋がる話だと思いますけど、やはり各市町村は、全然違います。隣の下北山村ですら一応ライバルで、違いますからね。
　だからそれを何でも一緒にしようとしたら、少ししんどいと思います。
　ただ同じテーマでね、三つやったらどうかというのはありだと思いますけど。

＜山下知事＞
　藤井南部東部振興監、何かご意見ないですか。

＜藤井南部東部振興監＞
　はい、ありがとうございます。
　ご指摘をいただいていますとおり、ひとくくりにするのということは大変難しいと思います。
　もちろん自治体間の違いもありますし、同じ自治体の中でも、集落によって違い等があるということで、今おっしゃったように多様性という形でどういうふうに進行していくかっていうのは、仕組は非常に大事な視点であると思います。
　今後その辺りをどういうふうに進めていくか、全体で考えるのではなく、それぞれのエリアで考えていく。県がエリア間あるいは市町村間の調整をし、どのように連携していったらいいのか、間に入ってそういう議論ができればというふうに思っております。

＜天川村　車谷村長＞
　南部・東部地域の今日は集まりで、それぞれ顔は違うという意見、先ほどからございましたけども、根底にあるのは、ほとんどは一緒かなと思います。
　過疎というところ、人口減少、そして人口減少に伴った空き家の対応、学校跡地の利用とかですね、或いはそういった利用をどうするかがほとんど各市町村の大きな課題になっているのではないかと思います。
　そんな中でどうやって、自治体が存続できるかっていうところ、移住者、定住者を増やしていこうじゃないかというような取組について、大まかには皆さん同じような考え方だろうなと思っております。
　農林水産の振興、観光、道路整備等いろいろありますが、やりにくい時代に突入していると思います。
　私の考えですが、この南部東部のほとんどの地域は、林業に依存していた地域ばっかりでございます。

林業がものすごくいいときに、次の時代をやっぱり見据えられなかったのでしょうか。そういったことを考えますと、次の代にどうやって、何を残していってやるか、残すまでもいかなくても、まちの形成を持続できるかというのが、我々大きな取組の中の、本当の中心になってくるんじゃないかなと思っております。

根底に抱える共通課題は、路線的にはほとんど一緒だろうなと思います。細分化されるところはあるでしょうけど。

南部・東部の振興のために今日は寄っていただいてると思うので、できればそういった部分の情報交換、もちろん当然情報収集能力の早い人は当然近くの町が何をやっているか知っていますけど。

そういったことの再確認、或いは知事の今後の南部・東部地域における見方をどう捉えていくかという、そういったような中身はこの市町村長サミットの小型版みたいな形になっておりますけども、もう少しこのアクションの方法も変えてもいいかなと思ったりもしているんです。

知事にはこの地域をしっかりと見ていただきたいなと思っております。

よろしくお願いします。

＜司会＞

それでは予定の時間となりましたので、最後に山下知事から、皆様からいただいた意見を踏まえまして、総括をお願いします。

＜山下知事＞

今、車谷村長さん仰ったように、各地域の抱える共通の課題どう対応して良いかということは、ここにお集まりの市町村長全員の課題だと思っていますので、そのような共通の課題とそれに対する対応策を協議するということで、年 1 回程度このような場があっても良いと私は感じております。

その上で、このように集まるだけではなく、個別の課題に対してどう対応していくか、その仕組を考えていく必要があると、今日のサミットで分かったところです。

ですから、こういう場とともに、また各地域で抱える個別の問題に対応するワーキングチームをどう作っていくのか。

それとまたそのサポートのあり方に関しても、全県同じ基準とかルールでは、その地域の切実な課題には対応できない。ですので、ある程度ローカルルールのようなものを検討していく必要があるのではないかという問題提起であったと思います。

都市計画法などの法律から逸脱するということはできないと思いますが、その中で、各地域の事情に応じてどのような対応が可能か、都市計画法所管部局と協議したいと思っています。今日は大変有意義な意見交換ができたと思っています。

ありがとうございました。

５．県からの報告事項

＜司会＞

それでは最後に県からの報告事項として総務部デジタル戦略課城家理事より奈良スーパーアプリの活用についてご案内させていただきます。

＜総務部デジタル戦略課　城家理事＞

１頁目、行政におけるこれまでの課題が「奈良スーパーアプリ」によるデジタル化でどのように改善されるのかということのご説明でございます。上の段について、住民の方からしますと、どこに情報があるのか、どこの部署に相談していいのかがわからなかったり、たくさんの添付書類を四方八方から取り寄せたり、何度も同じ資料を求められたりして、不満を感じておられる方がいるのではないかと思います。それにつきまして「奈良スーパーアプリ」の機能を使うことで、住民の方それぞれの関心に応じた情報が受け取れるようになったり、或いは役場の開庁時間以外でも、手続き、手数料の納付ができたり、行政機関がすでに保有している情報を活用しまして、添付書類の数を減らしたりするというようなことができるようにしたいと考えております。それから下の段でございますが、行政の側から対面や紙による非効率な業務処理がまだ多くあり、本来のその個人ごとのきめ細かな対応が難しい状況というものがあったり、或いはすぐ隣であっても課が違えば、情報の共有がうまくできていないといったこと、或いはコロナウイルス禍で生じましたように、１度に大量の件数を処理するということに、人海戦術に頼るということしかできなく、他の業務にも支障をきたしたというふうな経験をお持ちの団体があるのではないかと思っております。そういったところを、「奈良スーパーアプリ」の機能を使うことで、一人一人に適した情報発信ができたり、或いは手続きや給付などを迅速に提供したり、また、データを連携させることによりまして、組織横断的な情報共有というものを可能にして、不要な確認作業を減らす、或いはオンラインで手続きをすべて管理・完結させることで、必要な対面の時間を減らしまして、本当に必要な相談時間であるとか、或いは職員の企画業務というものに時間を回すということができるようにしたいというふうに考えております。

２頁目、構築内容のところでございますが、「奈良スーパーアプリ」の機能としてご説明させいただきます。上の表にありますとおり、今年度は情報発信、施設予約、電子申請、デジタル地域通貨の四つの機能を構築したいと考えております。下の方の利用のところでございますが、スケジュールとなっておりまして、今年度内に県のいくつかの業務で試行的に利用を開始したいというふうに今作業を進めているところでございます。資料の方に記載がありませんが、例えば利用イメージといたしまして、この「奈良スーパーアプリ」は、市町村ごとにそれぞれの業務や事業でご利用いただくというのが基本にはなりますが、例えば入札参加業者の登録といった現在県とか市町村でも、紙で受け付けて人で審査していると、そういう業務につきまして、市町村ごとにオンライン化するのではなくて、県と市町村の共同システムということで作れないかということを市町村担当課の皆さんと、ワーキンググル

ープを作って、検討を始めているところでございます。またデジタル地域通貨につきましては、各市町村で、物価高騰対策、或いは子育て支援などで、住民等の方々への現金給付というものがおこなわれていると思いますが、その給付につきまして、地域内での消費を繋げるツールということで、デジタル地域通貨の機能を「奈良スーパーアプリ」で提供させていただいて、必要な時に機動的に使っていただけるということにしたいなというふうに考えております。資料に戻りまして、上の表にありました四つの機能のほかに、市町村の方で、どのような機能がこれ以外にも必要なのかニーズがあるのかというようなことにつきまして、年度内に調査をさせていただきたいというふうに考えております。令和 6 年度から順次、市町村の方でもご利用いただけるようにしたいというふうに作業を進めているところでございます。

3 頁目、7 月 20 日に市町村の担当部局の皆様に説明会を開催させていただいたときの主な質問に対する回答を要約させていただいてるものでございます。セキュリティの方のご質問につきましては、データセンターは国内にございまして、政府のセキュリティ評価を受けたものを利用するという形にしております。それから個人情報の管理主体についてのご質問につきましては、県の方で管理するという方向で考えております。それから行政系のネットワークである、ＬＧＷＡＮというのが運用されてますけども、そちらからの利用ができるようにというご要望が多くございましたが、そのようにできるようにしたいというふうに進めておるところでございます。それからスーパーアプリへのご参加につきましては、県内のすべての市町村が参加してご利用いただけるようにというふうに作業を進めておるところでございます。その他の事務的なご質問も含めて、8 月の下旬から 9 月上旬にかけまして、2 回目の説明会をブロック別に開催をさせていただこうというふうに考えておるところでございます。

６．閉会

＜勝井次長＞

ありがとうございました。

これで本日の南部東部サミットをリーダー会議は終了させていただきます。